

ガイド**整備計画項目 1～5 カルテ**

二回にわたって「松本城およびその周辺整備計画」のおおよそを紹介します。

1 管理棟の撤去 ——> **条件が整いしだい早期に移転をはかる。**

管理事務所建築に当たって「史跡松本城整備計画」に基づいて、周辺の整備が整いしだい警備員詰所など必要最小限の建物を除いて、本丸庭園より撤去する。」という文化庁との確認書に従う。

2 本丸御殿の整備 ——> **発掘により遺構を確認し「信州松本城図」その他により、平面表示による整備を行う。**

本丸御殿礎石の確認 ——> **本丸庭園**

発掘	△	発掘により遺構が確認される可能性は高い。
写真	×	
指図	○	信州松本城之図・信州松本城図に御殿の平面図あり 本丸御殿絵図部屋割り、部屋名、柱間がわかる
文献	○	信府統記23 御用部屋割りがわかる

△は未発掘だが可能性あり。一部が発掘されている。 ×無い ○有り

◎整備の方向

- (1) 遺構保存のため、平面表示による整備
- (2) 本丸園路の改修 本丸御殿跡整備後よりよい方向で整備する。

3 北外堀内側石垣の補修 ——> **塁上の樹木の根に押されて、せりだしや一部の崩落を修理**

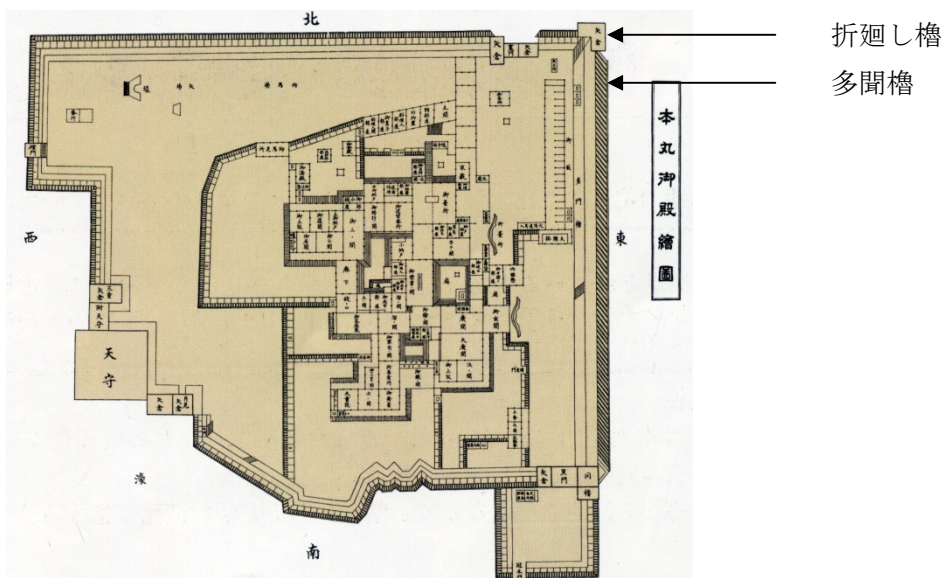


松本城本丸と二の丸の堀に臨む石垣の塁上の木々は明治維新後生えたもので、江戸時代は土塀が塁上にあり石垣を崩す原因となる樹木は塁上には植えられていなかった。城内に植えられた木の種類は松が主であった。

松本城管理事務所は専門家による石垣調査を実施し「石垣カルテ」

を作成して管理に当たっている。

4 多聞櫓・折廻し櫓の復元——→本丸東塁上にあった多聞櫓（単層・城壁ならびに武器庫）を復元し、城の景観を高める。本丸東北隅にあった「折廻し櫓」を多聞櫓と一体のものとして復元する。



	多聞櫓	折廻し櫓
発掘	△	△
写真	×	×
指図	○	○
文献	○	○

※多聞櫓・折廻し櫓の復元をする観点からは、太鼓門の復元と相まって、本丸東側を固める城壁が威容を誇るものとなり、北側を固めた重要な櫓もまた景観整備上天守の品位の上からも重要である。

5 足駄塀^{あしだべい}の復元——→現在の埋の橋は天守に美観を添えるために架けたものであり、資料に基づいていない。埋の橋を撤去し資料に基づく「足駄塀」を復元し旧状にもどす。

発掘	△	橋脚の保存確認の発掘を行う
写真	○	東内堀の足駄塀の写真明治初期あり
指図	×	
文献	○	信府統記 2 3

○埋の橋設置の事情

天守復元工事に伴い、松本市議会は同位置に架橋の話題が急に持ち上がり、橋脚八基を設計して、昭和30年9月末に完成をみ、埋橋の名にちなみ埋の橋と命名した。

往時の橋は高欄もなく、質素であったろうが、今回は朱塗り高欄を設けて美しく、北面からの美観を添えている。（「国宝松本城解体と復元」）

資料的根拠が埋の橋を撤去し資料に基づく足駄塀を復元し旧状にもどす。足駄塀は内堀と外堀を遮蔽し敵の船による水平移動を防ぐためのものであった。元禄期松本城下絵図には板橋が描かれ上部が通路となっている。従って、ある時期に足駄塀になったと推定される。